

# 平成21年度事業計画

財団法人日本ラグビーフットボール協会は次の事業を実施する。

## I. 国内大会関係

1. 第51回 YC&AC JAPAN SEVENS  
4月5日(日)  
場所:横浜 YC&AC
2. 第10回 全国高等学校選抜大会  
4月1日(水)~7日(火)  
場所:埼玉 熊谷ラグビー場
3. ジャパン・セブンス高校の部  
4月11日(土) 場所:葛飾区 葛飾陸上競技場
4. 第5回 全国高等学校合同チーム大会  
7月27日(月)~30日(木)  
場所:長野 菅平高原サニアパーク
5. ジャパンラグビー トップリーグ 2009-2010  
リーグ戦 9月初旬~平成22年1月初旬  
場所:北海道・東北・関東・東海・北陸・関西・中国  
四国・九州  
プレーオフトーナメント  
セミファイナル、ファイナル
6. 第64回 国民体育大会 (日本体育協会主催)  
10月2日(金)~6日(火)  
場所:新潟 新発田市(成年・少年)
7. 第22回 女子ラグビー交流大会  
11月23日(月) 場所:東京 江戸川陸上競技場
8. 第7回 東西学生クラブ対抗試合  
12月20日(日) 場所:大阪 花園ラグビー場
9. 第46回 全国大学選手権大会
10. 第89回 全国高等学校大会
11. 第17回 全国クラブ大会
12. 第60回 全国地区対抗大学大会
13. 第40回 全国高等専門学校大会
14. 第16回 全国ジュニア大会
15. 第63回 東西学生対抗試合
16. 第47回 日本選手権大会
17. 三地域協会対抗試合  
九州代表-関東代表 場所:関東  
関東代表-関西代表 場所:関西  
関西代表-九州代表 場所:九州
18. 第60回 朝日招待ラグビー  
平成22年3月 場所:福岡
19. 第6回 全国小学生タグラグビー選手権大会

## II. 国際大会・海外遠征関係

<高等学校関係>

1. サニックス・ワールド・ユース交流大会  
4月29日(水)~5月6日(水) (福岡 宗像市)
2. 第17回 日・韓・中 ジュニア交流競技大会  
8月(韓国) (日本体育協会主催)
3. 高校日本代表・フランス遠征

<日本代表女子関係>

4. セブンス W 杯アジア地区予選  
11月2日(月)~11月8日(日) (香港)
5. 女子香港セブンス  
平成22年3月(香港)
6. 東アジア競技大会 12月5日・6日(香港) (男女)
7. カナダ遠征(15人制日本代表女子) 9月~10月(予定)

<セブンス日本代表(男子)>

8. IRB アデレードセブンス 4月 (豪州・アデレード)
9. サファリセブンス 未定 (ケニア・ザンビア)
10. クリケットセブンス 10月 (シンガポール)
11. ワールドゲームス 11月 (台湾)
12. 東アジア競技大会 12月5日・6日 (香港) (男女)
13. IRB サンデイゴセブンス 平成22年2月 (アメリカ)
14. IRB 香港セブンス 平成22年3月 (香港)

<U20 日本代表関係>

15. ジュニアワールドチャンピオンシップ2009  
6月5日(金)~6月21日(日) (日本)  
場所 東京 (秩父宮ラグビー場)  
愛知 (瑞穂公園ラグビー場)  
大阪 (花園ラグビー場)  
九州 (福岡・レベールファイブスタジアム)  
(佐賀・ベストアメニティスタジアム)

<15人制日本代表>

16. アジア五カ国対抗2009  
4月26日(日) 対 カザフスタン(花園ラグビー場)  
5月2日(土) 対 香港(香港)  
5月16日(土) 対 韓国(花園ラグビー場)  
5月23日(土) 対 シンガポール(シンガポール)

- 17. IRBパシフィック・ネーションズカップ(フィジー)
  - 6月18日(木) 対サモア
  - 6月23日(火) 対J・オールブラックス
  - 6月27日(土) 対トンガ
  - 7月3日(金) 対フィジー
- 18. 11月＝日本代表戦
- 19. IRB パシフィック・ネーションズカップ強化会宿
  - 6月 初旬 豪州

### III. 各委員会関係

#### 1. 管理委員会

##### (1) 法務部門

- 1. 業務委託、スポンサー契約等の典型例の雛形化
- 2. 協会の判断・決定に関する紛争の法廷闘争化防止のためのスポーツ仲裁機構の有効活用方法の検討を要請する。
- 3. その他必要事項を実施する。

##### (2) 財務部門

協会運営に対し、財務面からの有効な助言を行う機能を担う。

- ① 中期的課題の検討、推進
  - ・「一本化」および公益法人への移行にむけた財務課題を検討する。
  - ・WC 招致に関する財務問題への対応を行う。
  - ・H22 年度以降の課題を検討する。
  - ・中長期的財務方針の構築するための検討を行う。
- ② H20 年度の実績把握、H21 年度予算の実行フォロー
  - ・費用対効果の分析を行う。
  - ・支出管理の問題点把握と改善指導を行う。
  - ・執行部門・理事会等への報告、助言を行う。
- ③ H22 年度計画
  - ・予算作成プロセスへの提言をする。
  - ・予算方針作成へ参画する。
- ④ 監査委員会との連携、協力する。
- ⑤ 各委員会の事業への助言、支援を行う。

##### (3) 環境部門

社会貢献活動と位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を積極的に図る。

- ① 事業活動
  - ・日本協会として『環境保全活動』を広域的に推進する。
  - ・『チームマイナス6%』(環境省主管)へ各地域協会及び各チームへの加盟協力の促進を図る。
  - ・広報委員会との連携・協力体制を強化し環境啓発活動を推進する。
  - ・トップリーグ事業委員会とのコラボレーションによる相乗効果を図る。
  - ・JOC、日本スポーツ振興センター等との連携を図る。

- ・JOC、環境省主催の環境セミナーへの積極的参加と他団体の取組み事例を研究し独自案を作成する。
- ・2015、2019WC杯招致に向けての戦略的環境PRの発信を行う。

#### ② 具体的実施計画

- 1) 広報活動(環境啓発PR)
  - ・ 広報委員会との連携によりHP、機関紙、プログラム、メンバー表等の活用を図る。
  - ・ 6月JWC開催時に観客・ファンへの環境啓発運動の推進行う。
  - ・ 環境横断幕(08年作成済)、ポスター活用、試合時のMC・ビジョン等へ告知する。
  - ・ ラグビー環境アンバサダー等(案)を検討する。
- 2) 試合開催時のゴミ分別回収を行い、資源再利用を推進する。
- 3) 協会役員・選手・関係者・ファンへの「チームマイナス6%」運動の参加を呼び掛ける。
- 4) 資源節約のため試合開催時のマイカップ運動を促進する。(オリジナルラグビータンブラー販売等)
- 5) 省エネルギー、エコ商品等の研究を行う。
- 6) すべての実践活動を広報PRと連動させ、環境啓発に向けた相乗効果を図る。

#### 2. マーケティング委員会

- 1. ラグビー競技の価値向上を各関係セクションと連携して再構築を図る。
- 2. 厳しい状況下での協賛社脱落の防止に努める。
- 3. 新規スポンサー獲得のマーケティング戦略を展開する。
- 4. 協賛スポンサー、協力メディア(後援社等)へのリコグニションを含むフォロー体制の確立を図る。
- 5. 売れるラグビーコンテンツの見直しと新しい付加価値創造の構築と活動を行う。
- 6. 電通との協力関係を強化し協賛金の増加を図る。
- 7. JRHPPに代表される若年層関連企画の確立とセールス活動を行う。(普及委員会との密なる連携)
- 8. マーチャンダイジングの再構築を検討する。
- 9. 中期戦略案を策定する。

#### 3. 広報委員会

- 1. 事業方針
  - ラグビーを通じて人に感動を与え、あらたなファンを獲得するための広報施策を積極的に展開する。
- 2. 広報活動の目標
  - ① マスコミとの良好な関係作りを更に進める。
  - ② 観客動員に資する広報活動を図る。
  - ③ 新たなファンづくりの活動を行う。
- 3. 活動施策
  - (1) 協会運営・事業広報
    - ① マスコミとのリレーション強化を図る。

- ②マスコミ懇談会の開催を行う。(年2回)
- ③報道機関社への挨拶回りをを行う。(年2回)
- (2)広報戦略の企画・立案
  - ①長期的なメディアプランの企画・立案する。
- (3)各部門への広報支援
  - ①日本代表事業・TL 事業への広報支援を行う。
  - ②ATQ 部門への広報支援を行う。
  - ③ヒューマン・プロモーションへの広報支援を行う。
- (4)各部門との連携による告知活動
  - ①ワールドカップ招致との連携を強める。
  - ②集客拡大プロジェクトとの連携を強める。
  - ③JWC 運営組織との連携・強化を図る。
  - ④マーケティング、事業、普及等との連携を図る。
- (5)危機管理広報
  - ①危機管理時の広報対応の強化を図る。
  - ②各層代表へのリスクマネジメント講習会を行う。
  - ③リスクマネジメントのガイドラインを作成する。
- (6)情報管理
  - ①ホームページの管理・運営及び情報基盤の整備を行う。
  - ②魅力あるホームページを作成する。
  - ③読まれる機関誌を作成し拡販に努める。
- (7)競技時広報の運営・強化
  - ①試合現場対応・支援活動の強化を図る。
  - ②試合後の会見運営の充実を図る。
  - ③試合記録早期作成し配布する。
- (8)三地域協会との連携
  - ①競技運営、広報関連の更なる連携強化を図る。
- (9)日常広報業務
  - ①取材・会見等の対応の充実を図る。
  - ②ニュース・ソースの発掘に努める。
  - ③ニュース・リリースの作成・的確な配信を行う。
  - ④関係先とのさらなる連携を行う。
  - ⑤ホームページによる情報発信の強化を図る。
  - ⑥機関誌編集の充実を図る。
  - ⑦競技時広報運営の強化を図る。
  - ⑧地方開催時の広報支援を行う。

#### 4. 事業委員会

- 1. 主催試合及び大会の事業・企画・運営に関する事項
  - ①ラグビーの価値向上を関係機関と構築する。
  - ②主催大会の事業企画の立案を行う。
  - ③主催大会の日程表の作成を配布する。
  - ④主催大会の円滑な試合運営に努める。
  - ⑤地域、都道府県協会との連携による運営を行う。
  - ⑥行政・関係機関等の連携による告知・啓発活動の強化を図る。
  - ⑦各メディアとの連携による集客拡大を図る。
  - ⑧集客拡大の諸施策立案し実施する。
  - ⑨普及委員会と連携し、若年層への普及促進とラグビー観戦への誘いを行う。
  - ⑩メンバーズ会員の増大促進活動の展開を図る。

- ⑪その他、必要業務を実施する。
- 2. 国際大会
  - ①中長期国際試合の計画案を作成する。
  - ②IRB、ARFU主催試合の円滑な運営を行う。
  - ③集客拡大のための諸施策を立案・実施する。
  - ④主催大会の集客・運営・広報・マーケティング等一体活動の展開を図る。
  - ⑤日本開催のジュニアワールドチャンピオンシップの確実な運営を行う。(地域・県協会との連携・協力)
- 3. 国内大会
  - ①日本選手権大会の集客・収益向上のための諸政策を実施する。
  - ②全国大学選手権大会の集客・収益向上のための諸政策を実施する。
  - ③トップリーグ事業と他収益事業との連携を図る。
- 4. 事業企画プロジェクト
  - ①中長期事業の提案書作成と答申を行う。
  - ②国際水準の試合運営に努める。

#### 1. 国体部門

- (1). 平成21年度第64回国体開催に関する打ち合わせを各機関と実施する。
  - ①新潟県実行委員会
  - ②新潟田市実行委員会
  - ③関東ラグビーフットボール協会
  - ④新潟県ラグビーフットボール協会
- (2)平成22年以降の国体開催県との打ち合わせを行う。
  - ・千葉県(22年)・山口県(23年)・岐阜県(24年)
- (3)平成27年第70回国体開催予定地(和歌山県)の競技会場視察を実施する。
- (4)国体部門会開催
  - 国体改革に伴う諸問題その他事項を検討する。
- (5)第64回国国民体育大会について
  - 大会期間：10月2日(金)～10月6日(火)
  - ① 組み合わせ抽選会
    - ・ 9月6日(日)午後1時～
    - ・ (財)日本ラグビー協会 会議室
  - ②代表者会議 10月1日(木) 新潟田市
    - ・ (少年男子)15:00～ 「ホテル清風苑」
    - ・ (成年男子)16:30～ 「ホテル清風苑」
  - ③表彰式 10月6日(火) 13:00～
    - ・ 成年男子・少年男子・総合(五十野公園陸上競技場)
- (6)開催地との意見交換会を実施する。
  - ・ 10月5日(月) 18:00～ 場所未定

#### 2. 社会人部門

- ①トップリーグを除く社会人ラグビーを発展させるための諸施策を実施する。(三地域協会との連携)
- ②7人制大会を実施する。(4月5日・横浜 YCACとの連携) 大学8・社会人6・クラブ2 計16チーム
- ③社会人チームへ積極的に観客動員策を実施する。

- ④第64回民体育大会(新潟県)へ協力・参加する。
- ⑤その他必要事項を実施する。

### 3. 大学部門

- ①大学ラグビーを発展させるための諸施策を実施する。
- ②三地域協会と協力して各試合運営を円滑に行う。
- ③大学チームの強化のための諸政策の推進を図る。
- ④21年度よりU20強化のため各大学へ協力依頼を行う。
- ⑤大学チームへ積極的に観客動員策を実施する。
- ⑥その他必要事項を実施する。

### 4. クラブ部門

クラブラグビーの社会的意義の促進

1. 「クラブラグビー10年構想」の更なる推進を図る。  
(6年目の折り返し年で再構築)
  - ①地域の人達・行政と協力し地域に根ざしたクラブづくりを目指し、地域住民、とりわけ青少年の社会教育・社会体育の向上に寄与する活動を行う。
  - ②安全で楽しいラグビーの実現のために多くの芝生のグラウンドの確保に努める。
  - ③クラブ大会は、選手、レフリー、役員、家族、友人などの関係者すべてが楽しめるものとしその実現に努める。
  - ④ラグビーの普及・強化・安全な図るため、各クラブチームは、自チームで公認レフリーを養成する。
  - ⑤関係者はラグビーを楽しめる環境作を推進する。
  - ⑥障害者のラグビーを積極的にサポートする。
2. ラグビー文化の涵養を通しての、「ワールドカップ日本招致」に協力する。  
クラブ部門では、「フェアプレー」「ノーサイドの精神」「One For All, ALL For One」「アフターファンクション」など、ラグビーの持つ素晴らしい文化を、様々な機会を捉えクラブ関係者に伝え、この運動をさらに拡大しラグビーの普及に寄与するとともに、「ワールドカップ日本招致」の実現こそ、ラグビー文化の理解を進める上にも重要な事業と認識し招致活動の支援をする。

#### 3. クラブ大会の開催

- ①第17回全国クラブ大会
  - 1回戦:平成21年12月27日
  - 準決勝:平成22年1月10日
  - 決勝:平成22年1月下旬
  - 会場:熊谷、秩父宮
  - 参加数:6チームによるトーナメント戦
  - 優勝チームは日本選手権への出場権を獲得する。
- ②学生クラブ東西交流フェスティバルIN菅平2009
  - 8月28日～30日
  - 場所:菅平サニアパーク・他 参加数:40チーム(予定)
  - ・菅平合宿の時期をとらえ、学生ラグビーの振興と普及を目的とした大会とする。
  - ・学生実行委員会を組織し、学生自身が主体的に関わり大会運営を行う。
  - ・単なる競技会ではなく、学生向けのレフリー講習会、安全対策講習会、スキルアップ研修会などを組み込んで学生クラブの資質の向上を図る。

#### ③第8回東西学生クラブ対抗試合

- 12月上旬
- 花園ラグビー場(大学選手権1回戦の前座試合)
- ・関東-関西の学生クラブ大会のそれぞれの優勝チームで学生クラブ日本一を戦う。

#### ④第5回クラブユース交流試合(兼:クラブユースU-19大会)

- 5月下旬 場所:福岡(さわやか広場)予定
- ・ラグビー部のない高校生がラグビーをやる場として、各地域に高校生のためのクラブ組織が誕生している。公式な試合会場の提供によるクラブユースの普及発展と拡大、大会の認知を図る。

#### 4. 女子ラグビー

- ①5月23日(土)15人制セレクション 保土ヶ谷ラグビー場
- ②6月7日(日)総会 ウィメンズプラザ
- ③7月17日(金)～20日(月) ユース、コルツ、一般選手、強化選手合宿予定
- ④7月27日(月)～8月4日(火) ユース カナダ遠征(バンクーバー)
- ⑤9月、10月 関東大会、関西大会、東北大会
- ⑥11月23日(月) 第22回女子ラグビー交流大会 江戸川陸上競技場
- ⑦平成22年3月 ジャパンセブンス大会  
場所:瑞穂ラグビー場
- ⑧ユース(小学5年生～高校1年生まで)は関東、関西、九州でそれぞれ毎月1回練習する。
- ⑨スクールの小学生対象を大会に春・秋 関東で開催

### 5. トップリーグ事業委員会

トップリーグ中長期事業計画に基づいた活動の展開

- 1 2009年度 集客目標 50万人を目指す。
- 2 2009年度のFOR ALL活動
  - ・FOR ALL活動の拡大・充実を図る。
  - ・ファン・日本協会関係者、地域協会関係者、加盟企業・選手に至る幅広い活動を展開する。
  - ・今までの継続と新たな活動を検討する。
- 3 トップリーグ事業委員会組織の充実
  - ・委員会本部組織の充実を図り、より機動力のある組織を構築する。
  - ・広報・普及活動並びに試合運営の精度向上を図る。
- 4 地域協会、開催地協会との連携強化
  - ・開催会場に対し、試合運営に関わる諸課題を共有化し、観客・選手に喜ばれる会場作りを目指す。
  - ・広報、普及、集客等運営精度の向上を共に図る。
- 5 会場開催地の決定
  - ・目標集客が見込める会場作りに努力する。
- 6 加盟企業との連携
  - 加盟企業との情報共有による、連帯意識の更なる向上を図る。
    - ・ 企業代表者会議(代表取締役) 年1回
    - ・ チーム代表者会議 年5回
    - ・ チーム運営担当者会議 年5回

- ・ 監督・コーチ会議 年2回
- ・ キャプテン会議 年2回

※特に 09 年度重要課題・チーム・選手のモラルに対する行動規範の制定・実行する。

#### 7 広報分野の強化

- ・TV 等への浸透を図る。
- ・新聞・雑誌等への露出拡大を努める。

#### 8 普及分野の強化

- ・ 集客を念頭に、普及活動の展開を行う。
- ・ 地方会場での集客対策の強化を図る。
- ・ ラグビーを「観る」楽しみ、「応援」する楽しみ、さらには「やってみる」楽しみさを推進する。
- ・ 開催地協会、加盟企業、外部専門機関と協働で企画し実施する。
- ・ FOR ALL活動との連動による普及の促進を図る。

#### 9 チャリティーマッチ(オールスター戦)の定着・実施

- ・ファン・選手・関係機関が一体となった感謝祭を開催しラグビー競技の魅力を高める。
- ・社会貢献活動さらに推進する。

#### 10 タグラグビーの普及(普及育成委員会連携)

- ・タグラグビーが文科省の新学習指導要綱に取り入れられ、トップリーグが加盟企業の社会貢献活動の一環として、共通の認識を持ち活動する。

#### 11 日本代表・JWC・RWC 等協会事業への協力

- ・加盟企業に対し、日本代表等への派遣に対する理解・協力をお願いする。

### 6. 普及育成委員会

・ラグビー競技の精神面を全面的に押し進め、勝利至上主義を払拭する。

・古来よりの「紳士のスポーツ」を目指す。

「普及宣言」

◇若年層プレーヤーへの伝達

3Side の精神の厳守

On Side の精神 = 反則をしない

No Side の精神 = 戦い終わったら Side 無し  
敵味方無し

For The Side の精神 = チームのために

◇指導者への伝達

3F のコンセプト

Fight = 闘志

Friend Ship = 友情

Fair Play = 正しく、正々堂々とプレー

【活動方針】

1. 競技人口(小学生・中学生)の5%増の継続および各カテゴリーで競技継続に重点を置いた普及活動の展開を図る。

特に中学生においては、進学先中学校にラグビー部がない等により他競技へ移行してしまうケースが散見されており、ラグビーをやりたいくてもでき

ない子供達の受け皿として各都道府県に「拠点校」を指定し競技継続を目指す。

2. タグラグビーが小学校の学習指導要の解説書に取り入れられた機会に地方自治体・小学校・教員に対する普及活動に努める。

教育現場に対する普及手法としては、ラグビー精神および社会的貢献に重点を置き、競技の普及を目指す。

3. タグラグビーの普及について、トップリーグ各チームと連携し各地域に密着して展開する。

4. 競技力向上と連携し、インストラクター制度の再構築およびインストラクターの育成を図る。

<総務関連事業>

①各地方自治体、教育団体等での研究活動へ講師派遣行う。

②タグフェスタ等のプロモーション事業への参加者児童に記念に残る物品を提供する。

<学校体育事業>

①タグラグビー普及のため三地域協会に貸出用としてダグセットを整備する。

②各種学校授業・講習会等への講師派遣をする。

③DVD版「指導者のガイド・ブック」を配布する。

<U-15 事業>

①「中学校」「ラグビースクール ジュニア」の垣根を外し、世界レベルに順じ「U-15」「U-14」「U-13」の各カテゴリーによる指導方針を確定する。

②第15回全国ジュニアラグビー大会の開催、同大会を同エイジ世代の最高峰と位置付け更なる発展を図る。本年は記念大会と位置づけ、各種イベントを企画し「ジュニアラグビー」の重要性を訴える。

③三地域協会主催の「ジャンボリー大会」および「各地域協会ブロック大会」へ効果的な助成を行う。

④中学生の競技継続を図るための「拠点校」活動への助成金を提供する。平行し、各ラグビー用品メーカーとの協賛を図り、ボール及び用具の供給を図る。

⑤指導者用「ジュニア ラグビー指導者用ガイド・ブック」を発刊する。

<U-12 事業>

①世界的レベルに順じて、「U-12」「U-10」「U-8」の各カテゴリーによる指導方針を明確にする。

②普及活動の手法・質の均一化、情報の共有を図るための「全国指導者研修会」を開催する。  
・「普及宣言」の周知徹底

③三地域協会主催の「ジャンボリー大会」および「各地域協会ブロック大会」を開催する。(助成金等の提供)

④三地域協会主催の「指導者講習会」へ効果的な助成を行う。

⑤指導者用書籍「ミニラグビー指導者用ガイド・ブック」を発刊する。

⑥冠大会「マイクロソフトカップ ミニラグビー交流大会」を実施する。

・スポンサーの意向を早期に確認し対処する。

## ＜タグラグビー事業＞

- ①サントリーカップ全国タグラグビー選手権大会は、タグラグビーの普及からも憧れの大会であり継続を図る。
- ②三地域協会主催の「各地域協会ブロック大会」へ効果的な助成を行う。
- ③三地域協会主催の「タグインストラクター研修会」への効果的な助成を行う。
- ④タグラグビーマニュアル「指導のためのガイドブック」の改定・増刷する。

## ＜その他事業関係＞

- ①ミニラグビーインストラクター、ジュニアラグビーインストラクターの両制度のネットを構築する。
- ②スクール生徒募集用のA3版「ラグビーしようよ！」のポスター作成し各地に配布する。
- ③各カテゴリーで情報交換可能な「掲示板」的サイトの構築する。
- ④日本協会ホームページの活用によりタグセット貸出等各種サービスを提供する。

## 7. 国際委員会

＜ワールドカップ日本招致活動を視野に入れた海外とのネットワークづくり＞

### 1. 海外への情報発信の強化

- ①IRB 理事国、アジア協会理事国に対し、定期的ニュースリリースを送付する。
- ②英文のJRFUハンドブックの制作し配布する。
- ③英文ホームページの充実および海外メディアの活用を図る。

### 2. 海外との窓口(コンタクトパーソン)拡大

より多くの日本協会関係者が海外と交流できるための機会を増加させる。

### 3. 事務局スタッフのバイリンガル化を促進する。

### 4. ワールドカップ日本招致活動をさらに推進する。

### 5. アジアでのリーダーシップを取るための各種活動を展開する。

## ＜一般項目＞

### 1. IRB関連

- ①IRB 議事録の管理・活用を図る。
- ②IRB 通達およびリリース翻訳の各部署へ提供する。
- ③IRB の各種規定の管理体制を構築する。
- ④IRB および IRB 理事国との諸連絡の強化を図る。

### 2. アジア理事会関連

- ①アジアラグビー協会の議事録の管理・活用を図る。
- ②アジア協会および理事国との諸連絡の徹底を図る。
- ③アジア協会諸事業に支援する。

### 3. 国際試合関連業務の強化

- ①計画的に国際試合を計画し実施する。
- ②計画的に国際試合および海外チーム受け入れ計画を作成し実施する。
- ③リエゾンオフィサー育成および各種運営に参加する

### 4. 国際関連一般

- ①海外VIP 来日時の実確な対応

②英文ホームページ、英文プレスリリース関連を定期的に発信する。

③クリアランスおよび海外遠征許可関連業務の徹底

## 8. 競技力向上委員会

### 1. 技術部門(ATQ プロジェクト)

#### (1). 活動方針と目的

2011年W杯において日本代表チームのベスト8進出、JWCにおいてU20日本代表がベスト8進出するために以下の事業を展開する。

- ①目標達成に必要な人材の発掘と育成を行う。(発掘・育成・輩出)
- ②目標達成のために必要な実効性のある計画の策定とシステム構築・実施(計画・実行)を進める。
- ③目標達成に必要なゲームプランと戦術開発(戦術・技術開発)と活用を図る。
- ④各部門との有機的な連携を図る。

#### (2). 主な事業内容

##### ①ATQ プロジェクト

- ・U20を基軸としたユース層の強化を図る。
- ・ハイパフォーマンス・ユニット選出選手の海外派遣を継続する。
- ・JAPAN A編成への支援と協力をする。
- ・ATQ アカデミーの継続に実施する。(HS、U-17 ブロックトレセンと連携)

##### ②育成チーム・選手強化(選考・合宿・遠征)

- ・U20世界大会へ支援する。
- ・高校代表チーム:フランス遠征へ支援する。

##### ④スタッフ派遣

- ・メディカルスタッフ(ドクター・AT)派遣事業を継続する。
- ・フィットネス&コンディショニング派遣事業(医学委員会連携)を継続する。
- ・テクニカルスタッフ派遣事業を支援する。
- ・アンチドーピング事業を支援する。

#### (3). スケジュール

##### ①ATQ プログラム

- ・4～9月に海外選手派遣(NZ:ワイカト)を実施する。

##### ②U20 日本代表の日程

- ・3月19日～4月5日:遠征(ウェールズ4試合)
- ・4月下旬:強化合宿(辰巳)
- ・5月中旬:強化合宿(都内)
- ・5月下旬～6月4日:直前合宿(都内)
- ・6月5日～6月21日:JWC(国内)

##### ③高校日本代表の日程

- ・5月30日～6月2日:セレクション合宿
- ・6月27日～30日:強化合宿
- ・7平成22年3月:フランス遠征

##### ④U17 ブロックトレセン、全国大会

- ・3月13日～7月1日 開催  
中国地区・四国地区:九州地区:関東地区:東北地区・東海地区:北信越地区:北海道地区
- ・7月22日～25日 U-17 全国交流大会時開催

- ⑤高校スキルアップキャンプ  
・7月28日～30日(菅平)

## 2. ルール部門

### 1. 重点目標

- ①IRB ELV の検証(U19 含む)と、その結果に基づく見解集約、IRB への提言・提出する。(4月15日)
- ②ラグビーの日本における正しい発展を目指し、IRB へルール改正の提言・実現を図る。
- ③ルールとレフリングのギャップ解消に努める。
- ④ルールの分かりやすい説明・啓蒙活動を行う。

### 2. 具体的な取り組み

- 4月15日  
・IRB に対し、意見回答の提出日
- 5月13日  
・IRB 理事会にて正式決定する。
- 6月～7月  
・IRB よりルール変更について通達がある。
- 8月  
・新ルール適用開始

## 3. レフリー部門

### 1. パネルレフリー(IRB パネル・A・A1・ST)研修活動

- ①パネルレフリー研修会(5・7・9月) 東京・秩父宮
- ②春季 TL オープン戦への派遣 東京・大阪・九州
- ③ST(タッチジャッジ)研修会(年5回) 東京・大阪・九州
- ④日本代表合宿への参加・・・未定
- ⑤パネルレフリー夏季集中研修 網走市・北見市
- ⑥アジアパネルレフリー研修会(8月下旬) 長野県菅平
- ⑦夏季 TL プレマッチへの派遣 東京・大阪・九州
- ⑧TL 派遣(9～2月)
- ⑨全国大会前パネルレフリー研修会(11月) 東京・秩父宮
- ⑩全国高校大会レフリー研修会(12月下旬) 大阪・花園
- ⑪全国各種大会派遣(1～3月)
- ⑫アカデミーレフリー研修会

### 2. 海外交流(派遣・受け入れ)

- ・A・A1レフリー資格者の増大・育成を図る。
- ・サイティングの採用を検討する。
- ①派遣関係  
・ワールドセブンズ、シックスネーション他(IRB 活動)
- ・アジア五カ国対抗(4～5月)
- ・ジュニア・ワールドチャンピオンシップ(6月)国内
- ・IRB パシフィック・ネーションズカップ
- ・アジア交流(アジア圏での国際試合・大会)
- ・IRB・TTT 研修(7月)
- ・アカデミーレフリー海外派遣(1ヶ月以上)
- ②受入関係  
・IRBレフリーアドバイザーの招聘
- ・IRBレフリーコーチの招聘
- ・IRBパネルレフリーの招聘
- ・サニックスユース大会(福岡 4月29日～5月6日)
- ・日本代表テストマッチ(11月)

## 3. 三地域レフリー指導

- ①全国高校選抜大会(埼玉・熊谷 4月1日～7日)
- ②サニックスユース大会(福岡 4月29日～5月6日)
- ③三地域巡回指導(4月～6月) 関東・関西・九州
- ④三地域トップレフリー研修会(8月中旬) 長野県菅平

## 4. レフリーコーチ・評価研修活動

- ①全国高校選抜大会研修会(埼玉 4月1日～7日)
- ②ワールドユース大会研修会(福岡 4月29日～5月5日)
- ③海外招聘レフリーコーチによる巡回指導(5・8・12・2月) 関東・関西・九州
- ④レベルII講習会(5月・6月) 関東・関西・九州
- ⑤パネル・三地域レフリー研修(8月) 北海道・長野
- ⑥パネルレフリー研修会等、適時実施
- ⑦全国高校大会研修会 大阪・花園
- ⑧アカデミー研修

## 5. レフリー評価、割当、ランキング

- ①トップレベルのゲームを対象にパネルレフリー・STを割当し、評価・コーチングを行う
- ②評価はデータベースに纏め、そのデータを参考にレフリー部門と海外招聘レフリーコーチとで協議し、レフリーのランキングを決定する

## 6. 出版・広報

- ①ルール伝達講習会(三地域別に開催 6月～7月)
- ②機関紙掲載
- ③協会 HP 活用
- ④IRB レフリーマニュアル等の整備

## 7. その他

- ①委員会活動  
定例レフリー部門会(4・5・7・8・11・2月) 東京他
- ②部門・三地域委員長合同会議(年4回) 東京他

## 8. 備品等購入

- ①Uシーバー購入(消耗激しい為、4年使用)
- ②エンブレム・DVD購入
- ③ピンバッチ購入(海外遠征用)

## 4. コーチ部門

### 1. 指導者育成

- ①強化コーチ養成講習会の開催
- ②育成コーチ養成講習会の開催
- ③スタートコーチ養成講習会の開催
- ④トレーナー養成講習会の開催
- ⑤各種講習会へのコーチ派遣

### 2. 研修会開催

- ①トップチームゲーム会議
- ②トップチームコーチ資格取得研修会
- ③ブラッシュアップ(義務化に伴う再研修)研修会
- ④三地域都道府県委員長会議
- ⑤IRBトレーナー研修会

### 3. コーチング研究

- ①IRB コーチ養成に関する会議への参加
- ②指導教材の開発

### 4. コーチング出版関連

- ①講習会用マニュアルの作成

②講習会・研修会用ポスターの作成

#### 5. 会議開催

①部門全体会議

②部門内小会議

#### 6. コーチ資格義務化に伴う事業

①有資格者登録管理システムの確立

### 5. 医・科学部門・AIR部門

ラグビーにおける競技力の向上と選手の健康管理を含む安全対策について医科学的側面および科学的側面からの支援を目的に、医事部門、科学・情報部門およびトレーナー部門それぞれのアプローチと部門間の連携をより密にして以下の事業を行う。

#### <医・事部門>

三地域協会および都道府県医務委員会間の整合性をとりながら広範な医学的支援を行う。

①三地域連絡協議会の開催

②日本協会主催試合医務担当

③日本代表チームメディカル部門担当(含む海外遠征帯同ドクター派遣)

④トップリーグメディカルコントロール部会担当

⑤マッチドクター(チームドクター含む)の養成

⑥AIRへの協力

⑦JOC、体協、JISSとの連携強化および他必要な事業

#### <トレーナー部門>

日本ラグビー界におけるトレーナーの位置付けを明確にするとともに人材の育成を行なう

①人材育成事業(ラグビートレーナー育成)

②競技力向上委員会トレーナー部門担当

③トップリーグメディカルコントロール部会との連携強化およびその他の必要な事業を行う。

#### <科学・情報部門>

さまざまな視点から科学的なアプローチによるラグビーの分析および調査研究を行う。

①ラグビーの普及・育成に関する技術情報を研究する。

②ラグビー科学研究18巻の発刊する。

③JOC、体協、JISSとの連携強化および他必要な事業を行う。

### 【具体的な取り組みについて】

#### <医事部門>

①委員会・医事担当部門会議・三地域連絡協議会

②医務担当・日本協会主催試合(主管協会と連携)

③日本代表チームメディカル部門担当(含む海外遠征)

#### <トレーナー部門>

①トレーナーセミナーの開催

②ホームページおよび関連機関誌を通じて医・科学情報を発信する。

③日本代表チームのトレーナー環境の整備・支援する。

④教育・啓発関連資料の作成する。

#### <科学・情報部門>

①委員会・担当部門会議・小委員会の開催

②人的支援:国際競技会コンサルタント

③物的支援:KIT&KIDS支援

④プログラム支援: AIRカンファレンズ

⑤情報支援: 科学情報・組織経営情報ニュース

### 【研究テーマ】

①ラグビーのゲーム様相に関する研究を行う。

②15人制・7人制の特性研究

③レフリー・ルールに関する研究

④グラウンドコンディションに関する研究

⑤体力・形態学基礎研究

#### <AIR部門>

AIR:アジアにおける強化及び普及に向け、共同・連携する中長期ビジョンのプラン・モデル構築に着手し、主導的機能を果たす

・連携組織との実践関係構築: JISS, JOC等

・アジア各ユニオンへの情報提供

・IRB向けのアニュアルレポート

・AIRの自律組織化

### 6. 高等学校部門

#### 1. 部会の開催

①全国高体連ラグビー専門部全国会議

4月11日(土)常任委員会 於:東京

12日(日)専門委員長会

12月25日(金)常任委員会 於:大阪

26日(土)専門委員長会

②競技力向上委員会高校部門会議

10月4日(日) 於:新潟

#### 2. 全国高体連関係について

4月 総体中央委員会(東京)

5月 評議委員会(東京)

9月 総体中央委員会

11月 部長・委員長会(東京)

3月 評議委員会(東京)

#### 3. 大会関連

①第10回全国選抜大会

4月1日(水)~7日(火)

埼玉県熊谷市:熊谷ラグビー場

32チーム参加(6チーム増)

②ジャパンセブンズ2009高校の部

4月11日(土)

東京都葛飾区:葛飾区陸上競技場

③サニックス・ワールド・ユース交流大会

4月29日(水)~5月6日(水)

福岡県宗像市:グローバルアリーナ

④第5回全国高等学校合同チームラグビー大会

7月27日(月)~30(木)

長野県:上田市菅平高原サニアパーク

⑤第64回国民体育大会

10月2日(金)~6日(火)

少年の部 新潟県新発田市

⑥第89回全国高等学校大会

⑦第40回全国高専大会

⑧第2回 U18合同チーム東西対抗

#### 4. 強化指導



- ①高校日本代表選手の選抜
- ②U17ブロックトレセン  
全国9ブロックで開催
- 5. 普及指導
  - ①合同チーム交流大会兼第30回普及指導講習会  
全国9ブロックで開催
  - ②スキルアップキャンプ2009  
8月3日(月)～5日(水) 長野県:菅平
- 6. 第34回高等学校指導者研修会  
平成22年1月9日(土)～11日(月)  
東京:日本協会・日本青年館  
全国9ブロックから2名の参加、研究発表と講演、大学選手権決勝の観戦
- 7. 高校海外交流について
  - ①高校日本代表海外遠征  
フランス遠征:平成22年3月
  - ②第17回日韓中ジュニア交流競技大会  
8月 韓国
- 8. 高校ルール検討委員会  
安全を最優先にルールの検証を行う。
- 9. 安全対策  
重傷事故の撲滅  
スクラムの組み方の徹底を図る。
- 10. その他  
高校部員登録人数を3万人台に回復するように普及活動を推進する

## 9. 日本代表事業委員会

- 1. 国内強化合宿
  - ①15人制日本代表
    - ・A5N 事前強化合宿(熊谷)  
4月15日(水)～22日(水)
    - ・メディカルチェック&コンディショニングテスト(JISS)
  - ②U20 日本代表
    - ・JWC 第一次強化合宿(辰巳)4月下旬4日間
    - ・JWC 第二次強化合宿(菅平高原)  
5月中旬10日間
    - ・JWC 第三次強化合宿(辰巳)5月下旬7日間
    - ・U20 第一次セレクション合宿(辰巳)  
12月下旬4日間
    - ・U20 第二次セレクション合宿(鹿児島)  
2月下旬6日間
  - ③7人制日本代表
    - ・セレクション合宿(辰巳)  
5月16日(土)～5月18日(月)
    - ・強化合宿(辰巳) 7月11日(土)～7月13日(月)
    - ・1day 強化合宿(辰巳)  
10月12日(月)～10月13日(火)
    - ・1day 強化合宿(辰巳) 1月中旬2日間
  - ④女子日本代表
    - ・7人制強化合宿(辰巳) 2泊3日

- ・15人制強化合宿(辰巳) 5泊6日
- 2. 海外強化合宿
  - ①15人制日本代表
    - ・PNC 事前強化合宿(豪州)  
6月2日(火)～6月12日(金)
  - ②女子日本代表
    - ・カナダ遠征(カナダ)  
9月28日(月)～10月5日(月)
- 3. 競技大会
  - ①15人制日本代表
    - ・アジア五カ国対抗(日本・韓国・カザフスタン  
香港・シンガポール)  
4月23日(木)～5月24日(日)
    - ・IRB パシフィックネーションズカップ(フィジー)  
6月11日(木)～7月3日(金)
  - ②U20 日本代表
    - ・ジュニアワールドチャンピオンシップ2009(日本)  
6月1日(月)～6月21日(日)
  - ③7人制日本代表
    - ・IRB ワールドシリーズアデレード大会(豪州)  
4月1日(水)～4月7日(火)
    - ・IRB ワールドシリーズサンデゴ大会(米国)  
2月9日(月)～2月17日(火)
    - ・IRB ワールドシリーズ香港大会(香港)  
3月18日(木)～3月29日(月)
    - ・サファリ7's大会(ケニア・ザンビア)  
6月9日(火)～6月23日(火)
    - ・ワールドゲームス(台湾)  
7月20日(月)～7月26日(日)
    - ・クリケットインターナショナルラグビー7's大会(シンガポール)  
10月27日(火)～11月2日(月)
    - ・東アジア競技大会(香港)  
12月12日(土)～12月20日(日)
  - ④女子日本代表
    - ・第二回女子W杯アジア予選大会(香港)  
11月2日(月)～11月8日(日)
    - ・香港7's大会(香港)  
3月22日(月)～3月29日(月)
    - ・東アジア競技大会(香港)  
12月12日(土)～12月20日(日)

## 【特別委員会】

### 1. 安全推進対策本部

- 1. 各委員会と連携し、横断的組織として活動する。
- 2. 「重症事故の撲滅」と「安全なラグビーの普及・徹底」を掲げ、安全対策の指導を行う。
- 3. 重症事故の再発を防止し、重症事故撲滅を図るべく発生事故に対する調査・分析・研究を行う。
- 4. チーム責任者等に『重症事故撲滅対策』の意識付けを行い、チーム内においてチームの責任者が事故撲滅の

啓発活動の牽引役を担い自ら事故撲滅・安全推進活動を展開できる組織的なサポートを実行する。

5. 「安全推進講習会」の開催により、「重症事故の撲滅」と「安全なラグビーの普及」の徹底を図る。
  - ①「Rugby Ready」の活用
  - ②安全推進講習マニュアル DVD の作成と管理
  - ③講習会講師としてのトレーナーの育成
6. チーム登録資格要件の追加など、速やかに具体的施策を実施する。
7. 分析ソフトの導入により、重傷事故分析班の活動を更に推進する。
8. 2010 年度に向け、また中長期的展望の下、新たな施策を検討、実施する。

## 2. 安全対策委員会

### 1. 普及・啓発活動

外傷・傷害の撲滅を目指し啓発活動の継続的実施。

＜具体的な取り組み＞

- ・安全推進対策本部と連携し、重症事故の撲滅に努力する。
- ・日本協会のHPを利用して、タイムリーな事例を掲載して、安全対策委員会として啓発する。

### 2. 調査・検討

1989 年からの重症事故データの継続的集計・分析

＜具体的な取り組み＞

- ・重症傷害報告書、1 ヶ月後経過報告書及び2ヶ月後経過報告書を提出する体制の組織強化を行う。
- ・重症傷害者に関するアフターケアの方向性模索する。

### 3. 研修会開催

#### ①全国安全対策委員長会議

日本協会として安全対策に対する方向性・通達事項・各都道府県単位の安全対策講習会に向けた伝達資料等、また各都道府県での課題をピックアップしてグループ討論を行う。

各都道府県安全対策委員長を招集し、共通理解を図り徹底する。

＜具体的な取り組み＞

- ・6 月に全国の安全対策委員長会議を開催する。（東京）

#### ②スキルアップ研修会

＜具体的な取り組み＞

- ・8 月初旬、菅平において高校生及びその指導者を対象とした講習会に講師を派遣する。

#### ③各都道府県安全対策研修会の実態把握

＜具体的な取り組み＞

- ・安全対策事業報告書を作成し、各都道府県での研修会後その提出を求める。

### 4. メディカルサポーター管理

メディカルサポーターの養成・管理の充実を図る。

＜具体的な取り組み＞

・各都道府県でのメディカルサポーターの養成状況を把握する。

・メディカルサポーター管理に関する認定証・手帳等の補充・検討する。

・メディカルサポーター更新の講習会を開催する。

### 5. 安全対策委員会の開催

安全推進本部との連携により全国安全対策委員長会議を6月に開催するため、5 月に第 1 回委員会を開催。また今年度の事故の傾向の分析と次年度への対策を含めた会を 12 月または 1 月に開催する。

### 6. 連携

医科学委員会・ルール委員会・コーチ委員会・高校委員会・安全推進本部との連携を一層強化して、外傷・障害の減少を図る。

## 3. アンチ・ドーピング委員会

IRB規定およびWADA規程を遵守するために、国内ドーピング防止機関であるJADAと連携調整しながら、ラグビーにおける選手、コーチ、トレーナー、チームDr等関係者を対象にして、ドーピング防止活動を行う。

1. ドーピング検査を実施する。
2. ドーピング防止普及啓蒙活動を展開する。
3. ドーピング防止関連資料の作成・配布する。
4. JADAとの連携およびその他必要な事業を実施する。

＜具体的な取り組み＞

#### 1. ドーピング検査

・JADAと協力して、競技会検査(テストマッチ・国内主要大会試合)および競技会外検査を実施する。

・JADAおよびIRBの検査対象者登録リストの掲載選手の居場所情報管理についての助言を行う。

・治療目的使用に係る除外措置申請手続きの補助と指導を行う。

#### 2. 普及活動・セミナー開催・情報提供活動・関連資料の作成

・チームDrとトレーナーを対象にドーピング防止関連の情報提供する。

・チームに対するドーピング防止講習会の実施する。

・ジュニア選手を対象にドーピング防止啓蒙活動。全国高校大会出場校および全国大学選手権出場校にドーピング防止関係資料を配布する。

## 4. IRB ジュニアワールドチャンピオンシップ

日本で初めての規模の国際大会として、下記の通り実施し、日本ラグビーの発展、ワールドカップ日本招致へ寄与することを目指す。

### 1. 目的

①青少年の健全育成に寄与するとともに、世界的ラグビーフットボールの普及と競技力の向上を目指す。

②世界トップ 16 カ国の代表選手による高レベルの試合を通して、日本国内及び全世界のラグビーフットボール競技に必要な基礎体力・技

能・知識等、選手の資質向上を図る。

③世界大会開催を通じ、開催地を中心に、国際交流・文化交流を図る。

## 2. 期間

6月5日(金)・9日(火)・13日(土)・17日(水)・21日(日)

## 3. 会場

- ・東京:秩父宮ラグビー場
- ・大阪:花園ラグビー場、
- ・愛知:名古屋市瑞穂公園ラグビー場
- ・福岡:レベルファイブスタジアム
- ・佐賀:ベストアメニティスタジアム

## 4. 競技方法

- ① プール別(4プール)の予選リーグ後、各プールの順位に基づく決勝リーグにより順位・優勝を決定する。
- ② プール戦組合せは前年度順位により決定する。
- ③ 最下位チームは翌年度、IRB ジュニアワールドトロフィーに降格する。

## 5. 参加チーム:16カ国

A:愛知・瑞穂公園ラグビー場  
ニュージーランド・アルゼンチン・アイルランド  
ウルグアイ

B:東京・秩父宮ラグビー場  
日本・イングランド・サモア・スコットランド

C:大阪・花園ラグビー場  
南アフリカ・イタリア・フィジー

D:佐賀・ベストアメニティスタジアム  
ウェールズ・オーストラリア・カナダ・トンガ  
順位決定戦 ↓

- 1位 G:東京・秩父宮ラグビー場
- 2位 G:福岡・レベルファイブスタジアム
- 3位 G:大阪・花園ラグビー場
- 4位 G:愛知・瑞穂公園ラグビー場

6. その他:各チームは開催地の青少年との交流事業(レガシープラン)に参加する。

## 5. 九州ラグビーフットボール協会

### 1. レフリー委員会

①各県委員長会議:

6月鹿児島・12月福岡・H22.2月福岡

②レフリー研修会・認定講習会

- ・九州地区トップレフリー研修会(8月・湯布院)
- ・九州地区B級レフリー研修会及び認定講習会(8月筋湯)

③アセッサ-研修会(未定・福岡)

④各種主催・主管大会へレフリーの派遣・各県試合会場

### 2. 社会人委員会

- ・第47回木元杯7人制大会(4月5日・福岡)
- ・第29回国体ブロック大会(8月22日~25日・長崎)
- ・第38回トップキュウシュウリーグ戦(9月~12月・各地)
- ・トップキュウシュウリーグA・B入替戦(12月5日・福岡)
- ・トップ九州リーグスケジュール会議(H22.2月・福岡)

### 3. クラブ委員会

・第35回クラブ・実業団大会(11月14日~15日・長崎)  
(11月29日・福岡\*決勝戦)

・第5回九州トップクラブリーグ(9月~11月・各地)

・九州惑大会(6月27日~28日・宮崎)

・各県委員長会議開催(6月・福岡、11月・長崎)

### 4. 大学委員会

・第48回九州山口医科系大学大会

(4月26日~5月4日・湯布院)

・学生強化およびリーダ講習会(5月22日~24日・福岡)

・第48回商経大学大会(6月20日~23日・福岡)

・第59回九州地区大学大会(6月26日~30日・福岡)

・第17回九州学生リーグ(9月~11月・福岡他)

・第9回九州地区対抗大学大会(11月14日~17日・熊本)

・学生リーグ入替戦(12月6日・福岡)

・各県委員長会議開催(7月・12月・福岡)

### 5. 高専委員会

・高専チームリーダ講習会(4月3日~5日・八代)

・第18回九州高専新人大会(5月9日~10日・久留米)

・各県委員長会議開催(11月14日・熊本)

・第46回九州高専大会(11月14日~17日・熊本)

### 6. 高校委員会

・九州高校選抜・関東高校選抜交流戦(4月11日・福岡)

・ワールドユース交流大会(4月29日~5月6日・福岡)

・第62回全九州高校大会(6月20日~23日・鹿児島)

・第29回国体ブロック大会(8月22日~24日・長崎)

・第89回全国大会各県予選(9月~各県)

・第32回全九州高校新人大会

(H22.2月20日~23日・福岡)

・その他強化合宿(夏・春)・指導会・各県委員長会議

### 7. コーチ委員会

・新スタートコーチ認定講習会(要請に応じて随時開催)

・育成コーチ養成講習会開催(未定)

・ブラッシュアップ講習会開催(要請に応じて随時開催)

・各県委員長会議(年2回)

### 8. 中学生委員会

・第31回九州ジュニア大会(7月31日~8月2日・大分鯛生)

・第22回九州中学校大会(8月2日~4日・大分鯛生)

・第10回九州ジュニアブロック大会(10月10日~12日・熊本)

・第11回九州ジュニアラグビーチャンピオン大会(未定)

・各県委員長会議(4月・8月・10月)

・インストラクター講習会(10月10日~12日・熊本)

### 9. 普及委員会

・タグフェスタIN

佐賀(5月)・鹿児島(10月) 他各県(未定)

・タグ指導者講習会

佐賀(8月)・鹿児島(11月) 他各県(未定)

・第36回少年ラグビー交歓会(8月14日~16日・阿蘇)

・ミニ・ラグビー交流大会

第10回西九州交流大会(9月26日・佐賀)

第10回東九州交流大会(11月1日・宮崎)

第9回南九州大会交流大会(H22.2月7日・鹿児島)

・第4回九州女子タグラグビー大会(12月6日・鹿児島)

- ・ミニ・ラグビー指導者講習会  
佐賀(10月)・鹿児島(11月) 他各県(未定)
- ・サントリーカップ全国大会予選  
佐賀(11月22日) 他各県(未定)
- ・沖縄ブロック大会(H22.1月17日・沖縄)
- ・九州ブロック大会(H22.2月・佐賀)
- ・普及育成委員長会議(2回)
- 10. 安全対策委員会
  - ・安全推進講習会(4月～5月)
  - ・安全推進キャンペーン(7月～8月)
  - ・メディカル・安全対策委員会合同総会(H22.3月)
- 11. 強化・セレコン委員会
  - ・九州代表・学生代表強化合宿(2月)
  - ・社会人・学生試合視察(9月～1月)
  - ・クラブ選抜対学生選抜試合(未定・福岡)
  - ・九州代表試合関係  
三地域対抗 対関西(福岡)・対関東(関東)
  - ・朝日招待ラグビー(未定・福岡)
- 12. 総務委員会
  - ・会員名簿の作成(7月)
  - ・主要スケジュール・メンバー表の作成・配布
  - ・九州・各県公式試合の編成・発行
  - ・各新聞における関係記事のスクラップ
- 13. 広報委員会
  - ・日本協会機関誌「協会だより」への投函(5回)
  - ・ホームページの更新(都度更新)
  - ・各県広報委員長会議(年1回)
  - ・トップリーグ共同記者会見の開催(8月)
  - ・定期的記者会見・懇親会の実施(8月)
  - ・各メディアへの情報発信、情報交換(随時)
- 14. メディカル委員会
  - ・公式戦への医師派遣(4月～3月・開催県)
  - ・公式戦指定試合のドーピング検査(4～3月・開催県)
  - ・JWC メディカルコントロール(6月・佐賀、福岡)
  - ・日本代表チーム帯同医師派遣協力
  - ・総務委員会(年2回・福岡)
  - ・安全対策合同総会(3月・福岡)
  - ・トップリーグメディカルコントロール(各県)
- 15. 個人登録制度(傷害見舞金共済運営事業)
  - <登録>
    - ・指定様式にてチームより各県協会経由5月31日まで登録・期中の登録は都度受け付ける。
    - ・登録状況を理事会に報告
  - <傷害見舞金>
    - ・見舞金10万円以上は当該の県協会代表者が直接見舞金を持参する。
    - ・審査委員会は年12回開催・結果は理事会に報告する。
    - ・運営委員会年1回以上開催
- 16. 国際試合
  - ・IRB ジュニアワールドチャンピオンシップ 2009  
予選プール(6月5日・9日・13日・佐賀)  
順位決定トーナメント(6月17日・21日・福岡)
  - ・第60回朝日招待ラグビー(未定・福岡)